

# 報道

# ニッポン

Monthly Graphic Journal : Houdou Nippon

issue 217 / Apr. 2007

4

特別企画

## 再生日本

- 企業家たちの横顔に迫る ● 医療と福祉 ● Specialistに学べ
- ニッポンを支える技と心～VIP・ザ・職人
- いい店 いい人 いい出会い

時事特集

増えるピック病と  
認知症対策



時代を読む

未来へと導く融合

報道特集

これからの知財戦略

# 東京都



東京都知事許可（般-14）第078412号

東京都知事登録第9568号

## 頸城建設 株式会社

東京都練馬区石神井町6-11-13

TEL 03-3904-5452 FAX 03-3904-7829

### 代表取締役 保坂 吉郎

#### 【保坂社長の足跡】

新潟県出身。学校卒業後は上京して大工の修業を開始し、4年ほど修業を積んで独立した。その後はさらなる成長を求めて社寺建築も経験。現在は環境と身体に優しい家造りに注力している。



大石 まずは社長のこれまでの歩みからお聞かせ下さい。

保坂 私は新潟県の山奥で生まれ育ちました。実家は農業を営んでいたのですが、子どものころからものを作ることが好きだったので、大工の道を選んだのです。学校卒業後はおじを頼りに上京し、夜間学校に通いながら大工の修業を開始しました。

大石 学校に通いながら修業されたのはどういった理由からなのですか？

保坂 理論を知らずに知識や技術を習得するよりも、学問と共に学んだ方が早く身に付き、一つ一つの作業に納得できるようになると思ったからです。とはいえ、大工の修業は厳しかったですし、眠

い目をこすりながら勉強していたことを思い出します。山奥で農業をする父のことを考えれば、自分の方が楽だと思い、励みにしていたものです。そして、4年ぐらい経験を積んで、独立を果たした次第です。

大石 そのころから高いプロ意識を持っておられたことが窺えますね。独立当初はどういったお仕事を？

保坂 一職人として大工の仕事を請け負ってまして、大手ハウスメーカーさんからお仕事を戴いていました。しかし、一人前になるのに10年かかると言われるところを4年で独立したわけですから、戴く仕事をしているだけでは、自分の成長が止まってしまう気がしました。それで、改めて宮大工さんのところに修業に行くことにしたんです。

大石 宮大工はとても専門的な分野だと思うのですが、どういったところに興味

を持たれたのですか？

保坂 普通の家とは全く異なるところが、それに普通的手法では造れないと聞いていたので、挑戦したいとも思ったんです。しかし、実際に始めてみると本当にそれまでの経験は全くと言っていいほど役に立たなくてね。必死に研鑽に励みましたよ。今では社寺建築を手掛けることはありませんが、当時培った技術や知識は今の仕事に役立っていると感じることが多いです。職人としても大きなプラスになったと思います。

大石 そうした経験が社長を一流の職人へと成長させたのでしょうか。では、現在のお仕事内容を教えて下さい。

保坂 環境と身体に優しい家造りを行っております。社寺建築を手掛けていたときからお付き合いのある方が“木を隠すことなく全て見せる家造り”を提唱していらっしゃるんですよ。その方が手掛ける家は天井などもほとんど貼らずに、梁などがむき出しのままなんです。私もその考えに共感して始めることにしたんです。

大石 梁がむきだし…？ 私の子ども時代にあったような、昔ながらの木造建築といった感じでしょうか？

保坂 基本的にはそうですね。それに現代風のアレンジを加えながら、一歩進んだ形の、自然素材にこだわった日本家屋を目指しています。最近子どもがシックハウスによってアトピーやぜんそくにか



# 自然素材で造り上げた 温かみのある木造建築を 世に送り出し続けたい

環境と身体に優しい家造りをテーマにした木造建築を手掛けている『頸城建設』。若くして独立し、社寺建築などにも携わった経験を持つ保坂社長の腕と経験に裏打ちされた知識には、多くの人が信頼を寄せている。本日はそんな社長に俳優の大石吾朗氏がインタビューを行った。

かる問題が取りざたされていますが、昔はそうした問題はありませんでしたよね。では何故、最近問題になっているのかというと、近年の建築素材を使用した壁や天井からは有害物質が発生することが多いから。人工的に作り出されたために、土に還らない素材が多いことが大きな原因なんです。そんな状況を改善すべく、自然の力を活かした環境と身体に優しい家を普及させたいと思っています。

大石 そういった木造建築を手掛ける職人さんは少なくなりましたよね。

保坂 家の構造を理解して造り上げる技術が必要となりますし、手間暇がかかるのに利益は少ないですから、やりたがらない人が多いのです。確かに当社としても会社である以上は利益を出すことは必要ですが、お金を儲けることよりも自分が本当に良いと思ったものを手掛けていきたいという気持ちの方が強いのですから、私は今後ともこうした家造りに取り

組んでいきたいですね。また、2年ほど前からは自然林から生まれたヒバを使用し、100年3世代にわたって住み続けられる家造りを目指した「青ヒバの会」にも所属していますので、さらに多くの方に自然素材の良さを分かって頂けるような取り組みを行っていきたくと思っています。

環境と身体に優しい家造りを行っておられる保坂社長。手間暇がかかって利益は少ない仕事だと仰っていましたが、あえてそうした分野に取り組んでおられる姿に、昔ながらの職人魂を感じました。今は機能性や効率性が重視される家が多くなりましたが、昔ながらの木造建築には目に見えない良い部分がたくさんあります。そうした良さを伝えていくことで、シックハウスの問題なども解決されていくのではないのでしょうか。私も家造りの機会があれば是非とも社長にお願いしたいと思います。これからも生涯現役を目指して頑張ってください！

大石 墨つけなども出来ない職人が増えてきていると聞いたことがありますから、そうした技術を後進に伝えていくことも大切なのでは？

保坂 ええ。今は若い従業員が数人います。技術を教えているところなんです。まだまだ経験は浅いものの、どんな仕事でも嫌な顔一つせず、一生懸命仕事に打ち込んでくれています。

大石 いずれは後継者というお考えもお持ちなのでしょうね。

保坂 そうあってくれると嬉しいですね。後継者も育てずに、自分で技術を得ているだけで満足してしまっただけでは、会社を立ち上げてまで仕事をしてきた意味がないですからね。

大石 それでは最後に将来の展望を。

保坂 今後とも環境と身体に優しい家造りを進めると共に、世界がもっと平和になるような家を造ることが出来ればと思っています。一方では、これまでに培ってきた技術によって、過疎化が進む地域に貢献出来れば嬉しいですね。

大石 今後とも頑張ってください。

(2007年1月取材)



## 一意 専心

▼古来より受け継がれてきた木造建築を継承すべく、様々な活動を行っている『頸城建設』の保坂社長。近年は機械化が進んで職人の技術をそれほど必要とせず家が建てられるようになり、家造りは機能性や効率性を重視するようになった。だが便利になった反面、シックハウスや耐久性が脆弱な家などの問題も増えている。それは木を本当に理解できるプロが減ったからだという。「木というのは自然のものですから、それぞれ性格が違います。

## 木造建築を継承するために

ですから使用する場所や条件などを考えなければならぬんです。しかし、それを全て同じ建材だと捉えるから、建物の歪みなどにつながってしまうのですよ」と語る社長は、「私はそうした現状を少しでも変えていきたいんです」と力強く決意を語ってくれた。そんな社長のもとには、現在多くの職人や設計士が意見を求めにくるそう。そうして地道に知識を伝え広めていく一方、現場で環境と身体に優しい家造りを行うことで、より多くの

人に本当の木材の良さを知ってもらおうと社長は活動を続けている。かかる期待は大きいですが、社長なら必ずや後世につながる活躍をしてくれるに違いない。

